

「自立した学習者の育成に向けた効果的な授業づくり」 について考える

令和6年度 第2回管内地域授業改善協議会からの学び

【日田教育事務所】

【要旨】

「第2回 日田管内地域授業改善協議会」

◆参加者 ○小・中・義務教育学校 研究主任等 ○管内市町教育委員会関係者 ○教育事務所 計48名

◆日時・場所 ○令和6年7月9日(火) 14:15~16:30 ○日田総合庁舎 4階 大会議室

◆目的

管内の各小・中・義務教育学校の研究主任等を対象に、自立した学習者の育成に向けた授業づくりについての協議・演習を行うことにより、各学校における組織的な授業改善の推進に資する。

【参加者アンケートの記述より】

子どもの実態とめざす姿	子どもを中心にすえ、考える授業づくり
<ul style="list-style-type: none">●<u>自立した学習者とはどのような姿かということ</u>を共通認識し、授業づくりにおけるゴールを明確にして話し合うことができた。●「<u>自立した学習者</u>」を考えたとき、<u>最初はなんとなくの想像でしかなかった</u>。グループ協議で他の方の考えを聞いていくうちに、<u>本校のめざす児童像と研究目標に照らして、より具体的にイメージできるようになった</u>と感じた。	<ul style="list-style-type: none">●ペア学習に取り組んでいる。子どもたちが話しやすいように「<u>話型</u>」を提示しているが、<u>声かけのタイミングやヒントカードの活用等の手立てが見えてきた</u>。●「自立した学習者」を育てるためには、さらにもう一步踏み込んで、<u>自分で課題を選択しながら自分のペースで学習を進めることができるようになる必要がある</u>と感じた。
授業者が取り組む授業改善	組織的に取り組む授業改善
<ul style="list-style-type: none">●<u>生徒を「支える・見取る」という視点での話し合いの持ち方</u>であるとか、<u>考えを持たせるための手立て</u>など、様々なアイデアをもらえた。●まずは、<u>子どもたちが課題解決に向けて自ら資料や問題を選択できるような仕組み</u>をつくりたい。●「子どもの姿を中心に据えた、授業者の視点で進める授業改善の取組」について、<u>「学習者の観察」からスタートして「観察・修正サイクル」を実働</u>することが、これからの授業改善のポイントであると感じた。	<ul style="list-style-type: none">●他校の取り組みがとても参考になった。多様な研究の方法があり、<u>本校の授業改善にも活かせる方法がある</u>のではないかと考えさせられた。●<u>授業の型にこだわらず、それぞれの学校や生徒の状況に応じて柔軟に対応することが必要</u>であると感じた。●<u>改善の方向性や具体的な方法については、各学校の状況によって様々</u>である。所属校に持ち帰り、すぐに活用することは難しいと感じる。2学期に向けて、検討していきたい。

本協議会を通して…

●他校の実践をはじめ、所属校でも活用できる貴重な話を聞くことができた。「自立した学習者」の具体的なイメージを念頭に置きながら、所属校での授業改善を続けていきたい。

●協議用・事前記入シートの内容が、本校の研究「授業者の日常を見直す」ことと重なり、校内研で活用させていただいた。授業では、児童の自立した学びの姿を見ることができ、授業者のファシリテーターとしての言動に注目して参観することができた。

本協議会の内容が、今後の所属校における授業改善の一助になれば幸いです。各校における取組との往還が、さらなる授業改善の促進につながるような協議会をめざします。
お忙しい中ご参加いただいた先生方、ありがとうございました。